

# 羽ばたけ通信 13号

編集・発行:

羽ばたけ鮎河自治振興会

事務所:鮎河地域市民センター内

TEL・FAX:0748-60-2721

E-mail:ayukahinkoukai@nike.eonet.ne.jp

## うぐい川公園・さくら並木周辺 4/8~9 咲くや鮎河さくらまつり

寒い日、暖かい日を何度も繰り返して、季節は冬から春にゆっくりと進行中、さくらのシーズンが近付いてまいりました。ウェザーニュースでは、今年は3月に入ってから気温の低い日が続き、西～東日本のさくらの開花は例年並み～遅いと言われています。鮎河に春の訪れをつげる4月8～9日のさくらまつりに満開のさくらが見られることを期待しています。

うぐい川のさくらがメジャーになり、昨年より一般客に加えて、観光バスによるツアー客が来られるようになってきました。今年のさくらまつりより、小倉木材(株)さんのソッチャ資材置き場を観光バス専用の駐車場としてお借りします。ツアー客の安全を考え、県道を横断、東野の市道をまつり会場まで歩いていただくことになりました。地域の皆様にはご迷惑をおかけしますが、歩行者には誘導員を配備、事故の起こらないよう安全確保に努めます。どうかご協力よろしくお願ひします。

また、まつり開催日以外の観光バスは、県道9号、県道507号交差点付近の駐車場を利用されます。一般客の車も多く、地元車両の通行に支障が生じる場合があるかもしれませんが、お互い交通安全に十分ご注意いただいて、このさくらの季節を無事乗り切れるようお願ひします。

さくらまつりのポスターとチラシです。お目に止められた方もいらしゃることでしょう。

鮎河さくらマップ(鮎河ガイドマップ)は来訪者にお渡しして、散策の参考にさせていただきます。



さくらまつりの開催日は、4月15日・16日に変更されました。

# 人・地域が煌めき、賑わいのある郷

## 桜海によみがえる鮎河の城事業

平成二十六年度、二十七年に甲賀市地域問題解決のための提案型モデル事業として採択いただき、二十六年に黒川氏城跡、平成二十七年に鮎河城跡・高尾城跡及びその付随施設の整備を行いました。支障木の伐採や除草、案内看板の設置などを行い、学習会を開催、また、案内パンフレットも作りしました。地域に残る貴重な文化財を地域の若い世代に認識してもらうことや来訪者に広く知っていただくためには見学しやすい整備が必要だったので。

平成二十八年度はきらめき部会の事業として取り組みました。穏やかなお天気の十一月二十六日に、地域の歴史に目を向けようと「里山ハイキング」地域文化を知る」と題して黒川氏城跡↓鮎河城跡伝承地↓高尾城跡を巡るウォーキングを実施しました。

参加者の皆様は午後東野集落センターで甲賀市出前講座「しつとこうか、こうかの歴史あれこれ」と題しまして地域のお宝、高尾山地蔵堂に安置されていて、奈良国立博物館の首席研究員らにより平安時代末の名仏と二〇一〇年確認された



「毘沙門天立像」のお話しを聞きました。三十一名の参加をいただき、「鮎河へ嫁いできて五十年近くなるけど初めて城山に登った。」「鮎河生まれやけど行ったことなかった」などの声もありました。二年前からの取り組みがあまり周知出来ていないことをもどかしく感じました。

まず、地元の人に知ってもらい、案内看板はありますが、知っている人が知らない人を誘って案内しながら輪を広げ、もっともっと身近な城山や高尾山になるようこれからも事業を進めてまいります。

(二〇一六・七・六毎日新聞掲載より)

博物館の募金箱に託された修理基金により傷みも激しく江戸時代以降に極彩色に塗られてた毘沙門天立像は平安期の優美なお姿によみがえりました。地蔵堂は無人で盗難の恐れもあり、今は、奈良国立博物館に寄託されています。

# 心豊かな人が育ち、生き生きと暮らせる郷

## 男子厨房に入りましょう！

簡単・うまい・男の料理、振興会開設以来毎年行っています男性のための料理教室。今年は二月十八日に水口町を中心に活発に活動されています麵つくりグループ（華粉（はなこ））の皆様を先生に最高に楽しい・最高に美味しい絶品のうどん打ちとてんぶらを体験していただきました。エプロン、バンダナ姿も様になった参加者の皆様は、華粉さんの手際の良さに感心しつつ、一生懸命うどん打ちやてんぶらを習っておられました。そして麺が茹で上がりさあ試食、なかにはきしめんや冷や麦？も混ぜてみましたが大丈夫、それが手打ちのいいところ、たいへん美味しくてたいへん楽しい時間でした。



合わせて…混ぜて…捏ねて…



※手打ちうどん（讃岐うどん）について  
四国香川県の名物うどん・さぬきうどんの特色は『もちもち（こし）して』『つるつ』とした食感です。もちもちとは小麦粉のタンパク質に水を加えて練ることができるグルテンの性質、つるつと食感とは小麦粉に含まれる澱粉（でんぷん）の性質です。

※うどん作りの材料

①小麦粉（中力粉）

②水・小麦粉1kgに対して四三〇g

③塩・小麦粉1kgに対して五〇g

④うち粉（コーンスターチ等）・うち粉や麺棒に生地がくっかないため使用

【麵つくりグループ華粉】

## スミまできれいにするルーコ

各區で実施されている

サロン等にお使いいただく福祉機器の配備をしてみました。今年度は大河原集会所で使用される口

ポット掃除機【ルーコ】



と【石油ファンヒーター】を購入、早速使っていたいでいます。集会所の維持管理はなかなかたいへんです。省力化を図るにはびつたりです。

# あんしん部会 安心して暮らせる自然豊かな郷



甲賀市土山地域防災マップ二〇一七保存版はもう、皆様のお手元に届いていますか？

◎防災マップの使い方

①マップを見て自分の住んでいる場所、想定される災害を確認してください。

②身近な避難所を確認してください。

③家族で地域で災害や避難について話し合ってください。

④安全な避難ルートをマップや現地を確認してください。

⑤大雨に対する避難をイメージして気象情報や避難情報の入手先を確認してください。また、大地震をイメージして身近な地震対策を進めてください。

⑥防災マップを身近な場所に備え付けておいてください。

※平成27年4月から、  
一次避難所⇒指定緊急避難所  
二次避難所⇒指定避難所  
と変わっています。  
大河原区の指定緊急避難所は  
かもしか荘です。  
東野1区の指定緊急避難所は  
東野集落センターです。  
東野2区の指定緊急避難所は  
見性庵・東野集落センターです。  
西野区の指定緊急避難所は  
鮎河公民館です。  
(災害対策基本法改正)

九月四日(日) 鮎河自主防災隊の防災訓練が実施され、隊員ら七十八名の参加がありました。

◎災害についての学習／河川協会発行の冊子『自分の命を自分で守るために』を用いての学習

◎危険箇所確認、住民への防災啓発(防災冊子の配布)

◎AED取扱い訓練

甲賀市消防団土山方面隊第一分団も参加、各消火栓器具格納庫の点検、劣化ホースの取替が行われました。また、訓練終了後、鮎河防災隊幹部により、西野区防火水槽明示標識整備作業が実施され、遠くからでも位置確認が容易になりました。



参加者全員集合



新しい標識に代わりました。

十月には緊急自動車道の整備作業を行いました。過去に消防ポンプ車が野洲川の水利まで下りるのにも、上がるのにも難儀した草ぼうぼうのソツチャ地先の自動車道が見違えるようになりました。

整備前



整備後



消火栓器具設置整備事業では、点検時に劣化が確認されたホースの取替を順次行っています。今年度は、昨年の通水点検時に水漏れのあった六本が新しいものになりました。

防災倉庫の備品として自然災害時等に必要で大判のブルーシートを購入、三個所に三種類、五枚ずつ配備しました。

この冬の大雪のように、自然は思いがけず、日々の安定した生活をひっくり返してまいります。防災隊では日ごろより地域の点検を怠らず、状況の把握も常に行い、困る人が出ないようスローガンである安心して暮らせる自然豊かな郷の実現に努めます。

自治振興会では平成二十三年度の設立当初から防犯対策事業により防犯灯のLED化を図ってまいりました。

防犯灯の整備は安心・安全なまちづくりには欠かせないものです。一〇〇パーセントLED化も視野に入ってまいりました。限られた予算ですがこの事業に重点を置き、皆様のご理解と各区のご協力をいただいで進めようと考えています。

区名	総数	LED化
大河原	50	45
東野	71	46
西野	53	46
計	174	137



## ご覧いただいていますか？

羽ばたけ鮎河自治振興会では、平成二十六年一月より公式ホームページ＆ブログを開設して、暮らしの情報や日々の出来事・各種行事予定の情報などを配信しています。ホームページや公式ブログに活用させていただくため鮎河のホットニュースや皆様撮影された季節の写真などを随時受付けています。是非、皆様のご厚意をお寄せください。

《お問い合わせ先》

◆羽ばたけ鮎河自治振興会事務局◆

☎〇七四八―六〇―二七二一

# 三部合同過疎対策事業で 二〇一七・二・二六 名張市錦生・伊賀市種生を訪問

今年 は 地域 づくり アドバイザー チームの 皆様 も 一緒 に 「自分 たち の まちは 自分 たち で つくる」 の 観点 から 「錦生 グランド デザイン」 を 示し、 住民 自らの 手 で、 活力 と 潤い の ある まち づくり、 人 づくり を 目指 して 活動 を されて います。 地 縁 法人 錦生 (にしきお) 自治 協議 会へ お じや ま した。

名張市では、区長をまとめる組織は無く、自治協議会が十一地区の区長で区長部会を形成、各地区の課題や、地域の課題を協議、地域の連携を図り、区と協議会と市とのパイプ役となる活動をされているとお聴きました。

私たちの地域を考えたとき、二年間の話し合いの後、平成二十六年四月対等統合された名張市立錦生小学校の跡地利用《ふるさとパーク》にかかるお話でした。地元のシンボルとして存在を残しつつ、未来につなげる跡地利用を行政と地域の協働の基に進められています。地域は行政の職員が二〜三名

常駐する施設を要望、その結果「名張市郷土資料館」が開館されています。サークル活動・世代間交流の場・放課後子ども教室など施設を借り受けられ活発な事業が展開されています。また給食棟は通年「木の子」里錦生事業協議会生産センター」として利用されています。きのこ作りで地域活性化、高齢者参加でみんな元気、きのこは年中収穫可能です。味しめじ・ひらたけ・きくらげ・しいたけなどの栽培の様子を見せていただきました。木の子ドリッシングもあります。「美味しい♪ジューシー♪楽しい♪」がモットーの錦生特産のきのこは何処のものにも負けない立派なものでした。活力ある地域にするため、学校を活用したいという思いがあるなか、地域で出来ること、出来ないことを明確にされ取り組んでおられます。



錦生、在任9年の富山会長もと地域が丸となって進められています。

午後からは伊賀市種生(たなお)合併以前は旧青山町ですが、大正五年に建てられ、平成十五年の統合により廃校となった旧博要小学校校舎に入らせていただき、管理されているNPO法人博要の丘代表者川村様のお話を伺うことが出来ました。大きな建物であるので、一棟のみを管理、耐震化が終わっている博要の丘ホールは地域のイベントや貸しホールとして地域住民等が利用されているとのことでした。校庭には、バーキュー施設や、五右衛門風呂を備え、テント泊が出来るとなっています。校舎を利



※博要のHPよりお借りしました。

## おしらせ

用した《不便な宿》計画も検討中とのことでした。校庭を挟むように建っている旧保育園は地域の市民センターとして活用されています。また、水田と山々が織りなす農山村の風景が守られてきた種生は鮎河と同様「ほたるの里」でもあります。毎年六月上旬はほたるウィークとされ、ほたる祭りが博要の丘で行われています。

鮎河小学校にも学区の皆様のお力があることでしよう。錦生自治協議会やNPO法人博要の丘の活動を参考に、これからの鮎河の地域づくりにより一層取り組んでいきたいと考えています。

「鮎河の地域づくりアンケート」や各地域での「地域づくり懇談会」の結果を踏まえアドバイザーチームで検討した内容を「小学校、保育園の活用を含めた今後の鮎河の地域づくり」中間提案書としてまとめていただきました。地域の皆様にお知らせし、ご意見をお聞きすることといたします。

組長様より配布されますので、ご協力をお願いします。